

日本性科学学会 ニュース

第22巻第2号

平成15年(2003年) 6月

発行人:野末 源一 印刷所:(株)絢文社

第23回日本性科学学会のご案内

日 時:2003年10月19日(日)10:00~18:00
場 所:よみうりホール(東京)
会 長:原科孝雄 埼玉医科大学総合医療センター形成外科教授
参 加 費:会員・一般5,000円 当事者(自己申告)2,000円 学生1,000円
メインテーマ:“性”その多様なもの

特 別 講 演 「性行動を決める遺伝子を探る」
山元 大輔(早稲田大学 理工学部教授)
講 演 「(仮題)思春期の性同一性障害」
塚田 攻(埼玉社会保険病院)
シンポジウム1 「多様な性を生きる」
虎井まさ衛, 伊藤 悟, 大江 千束, 上川 あや, 黒岩龍太郎
シンポジウム2 「性同一性障害と看護」

一般演題締切 2003年7月25日(金)
一般演題は全て口演です。発表は原則として、35mmスライド横長(単写)でお願いします。OHPは会場の都合上、使用できません。
データプロジェクター(Microsoft Powerpoint)は可能ですが、予め使用予定のシステムとバージョンを申し込みいただく必要があります。ノートパソコンの接続は、運営の都合上保証できません。
一般演題申込み 下記についてご記入のうえ、e-mailまたは封書にてお送りください。演題受付、採否、発表時間につきましては、追ってご連絡いたします。

1. 演題名 2. テーマ(下記から選んでください) 3. 演者, 共同演者名 4. 所属 5. 連絡先住所, TEL, FAX等 6. 400字以内の抄録 7. 送付方法 (ア) e-mailで上記1~6をアドレス;jsss23@saitama-med.ac.jpまで (イ) テキストファイルで保存したフロッピーディスク(OS, ソフトウェアを記載)にプリントアウトした原稿を添えて (ウ) 印刷原稿(ワープロが望ましい)

テーマ 1. 性機能障害 2. 性暴力 3. 避妊・中絶 4. 周産期・不妊 5. 他疾患における性 6. 性教育
7. 性感染症 8. 思春期と性 9. 更年期・老年期と性 10. マイノリティーの性 11. その他

事務局 〒350-8550 埼玉県川越市鴨田辻堂1981

抄録送付先 埼玉医科大学総合医療センター形成外科 第23回日本性科学学会事務局 担当:高松 亜子
TEL 049-228-3639(直通) FAX 049-228-3651 E-mail jsss23@saitama-med.ac.jp

第23回日本性科学学会/日本性科学連合JFSセミナー 合同懇親会

日時・場所 10月18日(土)18:00 アリスガーデン(千駄ヶ谷) 参加費:5000円

前日JFSセミナーを開催、夜は合同懇親会です。2日にわたってご参加下さい。

第23回日本性科学学会ホームページ <http://www.saitama-med.ac.jp/cinfo/jsss23>

Vol. 22

№
2

日本性科学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

看護と性—今日の問題—

千葉県立衛生短期大学 大谷 眞千子

今回は、「看護と性」と題して行った症例研究の概略と議論した内容に私見を加え報告します。

I. 看護教育における性と今日の課題

- 1950年代初めから看護系雑誌に“性”に関する文献が登場し、「性教育」という視点で主に産婦人科・泌尿器科領域での性に関する指導が中心であった。1970年代に入り、米国の看護理論のなかで人間の分析的分類に“性と生殖”に関するものが現れ、さらにWHOの「性の健康」、「QOL」の概念の影響を受け、「人間の性の理解と援助」の必要性を示唆する文献が発表され始めた。
- 1989年に実施された保健婦助産婦看護婦等学校養成所指定規則の改正で専門基礎科目に「精神保健」（性の発達と健康：性の概念と意義、性の発達、性行動を含む）が規定されたことで、基礎看護教育において“性”が一般化されることになった。
- 現在はカリキュラムの大綱化により、養成施設間で“セクシュアリティ”に関する扱いに格差があり、看護職の役割の範囲や教育内容への共通理解が得られず、さらに臨床看護の場においては、概して援助の必要性は理解されているが、対象のセクシュアリティに対する態度や知識、援助技法が問題になっている。

II. 臨床ではどのようなテーマがあるか

- 臨床看護におけるセクシュアリティには、「人間の基本的欲求としての性・成長発達と性」、「看護の場と性」、「看護行為と性」、「看護師-患者関係と性」、「疾患や治療と性」等がある。
- 最近注目すべきは、医療事故対策等患者の安全を守るリスクマネジメントの対に、“もうひとつのリスクマネジメント”として看護職者の労働安全衛生；「業務上の危険」のマネジメントの必要性が強調されていることである。業務上の危険には“感染の危険を伴う病原体への暴露”などの他“患者・同僚・および第三者による暴力；身体的攻撃、暴言、性的暴力、セクシャル・ハラスメント”がある。このうちセクハラに対して、日本看護協会の調査では調査対象の5割以上の施設が組織的に取り組んでいるあるいは取り組もうとしているという報告がある（2000）。

ケアする側に向けられる性的言動を、患者あるいは要介護者が表出するメッセージと受け止めて、対象心理の理解に踏み込んでケアにつなげていくという考え方があり、筆者自身も病状や薬物療法の影響も踏まえ、第一義的にはそのように捉えるよう学生に指導してきた。しかし、一部診療科や個室などの治療場面では、看護職者へのセクハラにより自尊感情を損なう、あるいはセクハラの対象が限定される傾向にあることから個人的な問題にされることへの不満や孤立感、ひいては離職につながる問題に発展していることも事実である。重要なことは、暴力やセクハラなどの攻撃性に潜むリスク要因をしっかりと把握する力をつけること、未然に防ぐソフト・ハード面の対策を組織的に講じることではないか。いじめのように「当事者がセクハラと感じたらセクハラ」という論調もあるが、医療従事者と患者の関係に安易に引き合いにだすのは問題がある。

検査、治療、ケアの際、大多数の患者は身体を見られる・触られるという行為に対して「入院したんだから、仕方がない」と妥協し、われわれ医療従事者は「治療のため」という特権を与えられて行っており、このような関係にあることも日常の慣れで意識が薄れ、配慮を怠りがちになることを戒めたい。

III. 臨床看護師の立場・業務と課題

- 臨床看護師は、個々の患者のケアプラン立案者として1対1の関係をもちつつ、生活の援助、病状管理、治療に関わる援助等日常業務では固定的な1対1の関係ではなく、関わる目的も生活に密着している。この点は医師やカウンセラーとの大きな相違である。このような違いは、患者から見ると自身と医療従事者との距離感の違いを感じさせ、看護職に対しては近い感覚を持つため、他の医療スタッフに言いにくい性の悩みを看護職に表出することが多いのか？
- 医療チーム全体の「セクシュアリティは医療の対象か？」、「患者のセクシュアリティにどこまでかかわるか？」の共通認識が不十分なことが、専門職間の連携や継続性のある関わりを困難にしている。

「ハバナでの学会に参加して」

田園調布学園大学 荒 木 乳根子

初めてのキューバ！降り立ったハバナは乾期で気温も25.6度のせい、大気が肌にとっても心地よい。会議場に詰めるには惜しい青空の日々を、学会を適当にエスケープしながらエンジョイした。

挨拶で握手しハグする文化とお辞儀をする文化では、セクシュアリティの有り様に違いがあるのでは、という問題意識をもつ私には、文化の差異を肌で感じる良い機会でもあった。まずは久々に会った研究者達の喜び露わに抱き合い、キスを交わす挨拶。初日の「Welcome Cocktail」で見たセクシーで見事な踊りっぷり（このときは劣等感を覚えながらも、率先して輪に入られた宮原先生に勇気づけられて、茅島先生や藤原先生と共に、阿波踊り？で仲間入り）。それにパフォーマンス「ENDOKO」。劇場の幕前には素裸の妊婦が！「これは何！」と頭の中を疑問符が駆け回っている間に幕が開き、部分的にボディペインティングした素裸の男女が次々に登場、男と女、男と男、様々に絡んで踊る。頭の中の疑問符は最後まで踊っていたが、きっとどのような性の有り様も肯定するという賛歌だ…と納得。それにしても、性に肯定的だし、研究者の層も厚い。私が発表した部屋は「Sexuality and the Golden Years」に関する「Moderated Poster Session」だったが、発表者は私の他に、米国1人、キューバからは7人もいた。私が述べた中高年の男女間の問題点は、司会者によると他の発表と共通しているとのこと。

日本から共に出席した方たちからも良き刺激を受け、感謝している。様々あるが、筆頭は総会での大川先生のねばり強い権利の主張。事務局の不手際で日本の投票権が少なかったのだが、宮原先生共々実に根気強く掛け合い、5票を確保した。各々自己主張が強い国々に太刀打ちして行くにはこうでなくてはと思ったことだった。

学会の本道の報告は石丸さんからの報告に譲るとして、畑さんと彷徨った旧市街、針間先生と潜ったメキシコ湾の魚たち等、言及する紙数がなくなったのは残念。

ともあれ、とても良い経験でした。みなさんありがとう！次回のモントリオールには大挙して参りましょう！

第16回世界性科学学会報告

東京大学大学院教育学研究科教育心理学コース博士課程 石 丸 径一郎

2003年3月10日から14日まで、16th World Congress of Sexologyがキューバのハバナ国際会議場（Palacio de Convenciones de La Habana）にて開催されました。キューバは、政体の違いや距離の遠さもあって、渡航準備から到着するまでがひと苦労でしたが、到着してみると暖かく湿度の高い空気とのどかな雰囲気ですっきりとした気持ちになりました。キューバは、特にヨーロッパの人たちにとっては南国リゾート地として人気が高く、学会の参加者もかなりラフな格好でリラックスして参加している人たちがばかりでした。

学会のメインテーマは「セクシュアリティと人類の発展、理論から実践へ」というものでした。今回の学会長は、キューバ性教育センター代表のMariela Castro Espinという女性の方で、あのカストロ議長の姪にあたるそうです。正確な参加者数は聞いていませんが、ウェブサイトの情報によれば129の国・地域から1,300名以上の事前登録があり、1,045の演題が申し込まれたそうです。会場は同時通訳設備を備えた立派な国際会議場で、大小16の部屋を同時並行で使ってバラエティに富んだプレゼンテーションや講演が行われました。

開会式ではコーラスや子ども劇団による熱烈な歓迎を受け、その後のカクテルパーティーでは、キューバ音楽のミュージシャンたちの陽気な演奏が聞けました。本場で聞くラテン音楽は、想像以上に素晴らしいものでした。

日本からは、荒木乳根子先生による中高年カップルのセクシュアリティについての研究、大川玲子先生によるワギニズム理解の新機軸を打ち出した研究、荻野員也先生によるゲイのカミングアウトプロセスに関する研究、藤原聡子先生による不妊の悩みに関する中国と日本の比較研究などの発表がありました。私は、針間克己先生との共同研究として、性同一性障害を持つ人たちの臨床的特徴と心理社会的適応の状態に関する発表を行いました。会場では、性同一性障害の権威であるRichard Green, Milton Diamond, Eli Colemanの各先生が聞いていましたので、大変緊張しましたが、Coleman先生には温かい言葉をかけていただき、感激しました。

スペイン語が公用語であるキューバでの開催なので、中米・南米・スペインなどのスペイン語話者の参加が非常に多く、言葉に関しては苦労しました。主要な会場では英語への同時通訳がついていたのですが、中には通訳のつかない会場もありました。

学会の合間には、ハバナ市内の街並みを巡ったり、トロピカーナというキャバレーのダンスパフォーマンスを観たりしました。キューバのダンサーたちは、男性も女性も大変スタイルがよく、情熱的なダンスを楽しめました。

規模の大きさや、言語の問題などで、私にはなかなか学会の全体像をつかむことが容易ではありませんでした。しかし、語学を勉強し、専門知識ももっと増やして、次回は参加者たちとともに充実したコミュニケーションを図りたいという意欲がわきました。

次の世界性科学学会は、2005年にカナダのモントリオールで行われます。次々回は2007年にオーストラリアのシドニーで行われることが決定されました。シドニーでは「マルディグラ」という世界最大級のセクシュアル・マイノリティの祭典が毎年行われていますが、2007年の学会はマルディグラと同じ時期に日程を合わせて開催される予定とのこと、これも楽しみです。

第8回日本性科学学会総会議事録

日 時：2003年5月18日 午後1時00分～1時30分
場 所：東京慈恵会医科大学西新橋校一号館5階講堂

開会の挨拶が野末理事長からあった。

続いて、司会者（針間幹事長）が議長を誰にすべきか会場に諮った。会場からの「司会者に一任」の声を受け、石河前学会長が議長となる。以下石河前学会長の議長で進行。議長よりの、「出席者47名、委任状123名。総会が成立した」との報告があった。

議題1 2002年度事業報告（長池総務担当理事）

○2002年度の事業報告が長池理事からなされ、承認された。（資料1）

議題2 2002年度決算の承認（山崎財務担当理事）

○2002年度の決算が山崎理事より報告された。（資料2）
○本多監事より監査報告があり決算は承認された。

議題3 2003年度事業計画案の承認（長池理事）

○2003年度の事業計画案が、長池理事より提示され承認された。（資料3）

議題4 2003年度の予算案の承認（山崎理事）

○2003年度の予算案が山崎理事より提示され承認された。（資料4）

議題5 第24回日本性科学学会学会長選任について

○野末理事より新潟県小出保健所内野英幸所長が推薦され、承認された。

議題6 その他

(1) 資格認定制度委員会報告（阿部委員長）

○2002年度の資格認定はセックス・カウンセラーはなく（累積29名）、セックス・セラピスト4名（累積42名）であった。

○今年は、初年度の認定者の更新時期にあたる。

(2) 関連団体との交流（大川理事）

○アジア性科学学会が2002年11月14日～17日にシンガポールで行われた。約600人の参加者があり、日本からは15名前後が出席した。オーストラリアがアジア性科学学会に入り、今後アジア・オセアニア学会となる事が決定された。次回は2004年6月にインド・ボンベイで行われる。次々回はタイで。

○世界性科学学会が2003年3月10日～14日にキューバで行われ、約1500人の参加者があり、日本からは15名前後の出席者があった。次回は、2005年にカナダ・モントリオールで。次々回はシドニーで。

○日本性科学連合のセミナーを10月18日に、原科教授のお世話で行う。会場は慶応大学医学部北里講堂。テーマはセクシュアルヘルス。

第23回日本性科学学会学会長挨拶

○原科孝雄学会長の挨拶があった。

第24回日本性科学学会学会長挨拶

○内野英幸保健所長の挨拶があった。

阿部副理事長による閉会の挨拶

〈資料1〉

日本性科学学会2002年（平成14年）度事業報告

（2002年4月1日～2003年3月31日）

1. 第7回総会

期 日：2002年5月12日

場 所：東京都・山之内製薬本社ビル

出席者：50名

委任状：140名

2. 会員状況（2003年3月31日現在）

正会員 289名 賛助会員 3法人

3. 会の運営

(1) 理事会 3回

(2) 幹事会 12回

4. 学術集会の開催

(1) 第22回日本性科学学会

期 日：2002年10月20日

場 所：大阪市立大学大学院医学研究科・医学部講堂

会 長：石河 修（大阪市立大学大学院医学研究科・医学部産婦人科教授）

テーマ：セクシュアリティと女性のQOL

5. 研修会、研究会の開催

(1) 第31回性治療研修会

期 日：2002年5月12日

場 所：東京都・山之内製薬本社ビル

(2) 症例研究会 6回開催

6. 学会誌、学会ニュースの発行

・学会誌 2回

・学会ニュース 4回

7. 資格認定制度実施状況

資格認定者

・セックス・カウンセラー 0名（延べ 29名）

・セックス・セラピスト 4名（延べ 42名）

8. 団体交流

(1) 日本性科学連合（JFS）

・加盟団体

日本性科学学会、(社)日本家族計画協会、(財)日本性教育協会、日本思春期学会、日本性機能学会、日本性感症学会

・セミナー

期 日：2002年10月19日

場 所：大阪市立大学付属病院 講堂

(2) 世界性科学学会（WAS）

第16回大会 2003年3月10日～14日

キューバ・ハバナ国際会議場

(3) アジア性科学学会（AFS）

第7回大会 2002年11月14日～17日

シンガポール・ラッフルズシティ コンベンションセンター

〈資料2〉

日本性科学会 2002 年（平成 14 年）度決算（2002 年 4 月 1 日～2003 年 3 月 31 日）

〈資料3〉

日本性科学会 2003 年（平成 15 年）度事業計画案（2003 年 4 月 1 日～2004 年 3 月 31 日）

1. 学術集会の開催

○第 23 回日本性科学学会

期 日：2003 年 10 月 19 日（日）

場 所：東京都・よみうりホール

会 長：原科 孝雄

（埼玉医科大学総合医療センター・形成外科 教授）

テーマ：“性” その多様なもの

2. 研修会、研究会の開催

○第 32 回性治療研修会

期 日：2003 年 5 月 18 日（日）

場 所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館

○症例研究会

3. 学会誌、学会ニュースの発行

4. 資格認定制度の実施

5. 関連団体との交流

(1) 日本性科学連合（J F S）

(2) 世界性科学会（W A S）

(3) アジア性科学会（A F S）

〈資料4〉

日本性科学会 2003 年（平成 15 年）庶務管案（2003 年 4 月 1 日～2004 年 3 月 31 日）

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト 資格認定および更新に関する告示

認定委員会委員長 阿部 輝 夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定ならびに更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、平成 15 年度の資格認定ならびに更新を行います。申請期間は、8 月 1 日～8 月 31 日です。

資格認定希望者は、申請書類を日本性科学会事務局まで、ご請求下さい。

また、資格更新該当者には、事務局より更新申請書類を 7 月中に郵送致します。

いずれの場合も、規定をご熟読の上、ご申請下さい。

性同一性障害の戸籍訂正に関する法整備への要望書提出

日本性科学会幹事長 針 間 克 己

日本性科学会員でもある南野知恵子参議院議員を事務局長とした、自民党の性同一性障害勉強会（会長 陣内孝雄参議院議員）は、2000 年 9 月より 2003 年 3 月 18 日まで、6 回の勉強会を開催した。第 6 回の勉強会において、日本性科学会は他の関係医学 5 団体、当事者 3 団体とともに、性同一性障害の戸籍訂正の早期実現を望む要望書を提出した。この要望書は緊急理事会で承認されたもので、阿部輝夫副理事長により、陣内孝雄会長に手渡された。要望書提出を受け、陣内孝雄会長より法整備に早期に取り組んでいくという決意が示された。

なお、同様の勉強会は民主党でも開催され、公明党、社民党でも勉強会開催が検討されており、性同一性障害の戸籍に関する早期の法整備が期待される。